

卒業生代表あいさつ

青い空の上にさらに青い空があるようにも感じられる今日の佳き日、私たち二十五名は卒業証書を授与され、九年間の義務教育を終えた達成感とうれしさを味わっています。校長先生はじめ先生方、そして今日の日を待ち望んだ家族の皆さんに、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

三年前、原町三中での入学式を迎えました。教室前の花壇には、色とりどりのチューリップが列を作っていました。それ以上に、中学校の授業に、部活動に、そして、太田・大甕二校を中心とした新しいクラスに、ときどきするばかりでした。しかし、数日すると、そんな不安があったことすら忘れ、にぎやかで活気あ

ふれるようになりました。

しかし、私たちは、それだけでは原町第三中学校の生徒になれたわけではありませんでした。まだまだ小学生気分も抜けずに、慣れない制服や運動着を着て、生徒会活動や、集会活動、見学学習など、幾つもの行事を経験しました。学校生活の分だけ、連帯感も生まれ、行動の仕方や考え方も、原町三中の生徒らしくなってきたように思います。

そんな中でも、気持ちを最大限に注ぎ込んだのが私たちにとってのメインイベント『燦稜祭』でした。学級で総合の発表準備をし、実行委員の仕事、パフォーマンスの練習をしました。多くの人が何役もこなし、体が幾つあっても足りませんでした。今なら、ああもできた、こうもやれた、と反省点はたくさんあります。

でもあのときは、精一杯の力を出し切ったと感じています。

また、授業以外で最も多く時間を費やしたのが部活動でした。新たに部員を迎える度に、緊張感と責任の重さを加え、一方では、大会で実力を発揮できるか、上級大会へ進めるか、自分自身へのプレッシャーも大きくなりました。

中体連でも、新人戦でも、学年単独でチームは組めないこともありました。先輩と団体戦を組み、実戦での勘と勝負度胸を身に付け、その後は後輩をリードしようとする意識にもつなげました。

各部とも活躍は目覚ましく、合同チームを組んだ野球部も見事な成績を収め、吹奏楽部は全国へと進み、文芸部も目標に沿って着実に活動しました。

修学旅行の都内班別研修は、自分で計

画し、行動して、東京でしかできない体験をすることが目標でした。一番の楽しみでもあったのに、不安も大きく、電車の乗り換えだけでもドキドキしていました。ただ、そのときどきこそ、東京の大きさとシステムを体験し、学ぶことだったと今になつてわかります。

また、デイズニーシーのタワー・オブ・テラーにクラス全員で挑戦しようと話し合っていたことも、これからも経験できない、とてもいい思い出です。

しかし、その他の行事も、三年生になると、急に慌ただしく過ぎていくようでした。

三年生になつて、行事が一つ、一つと終わる度に、「楽しかった」の思いとともに、「残りにはさらに少なくなったな」と感じ始めました。そのころ、三年生も後半

になり、クラスの中でも意思の疎通が上手くいかないことがあります、「言葉の力」をテーマに、言葉の大切さと、いかによく伝え合うかを考えるようになりました。

楽しい日々は過ぎ去り、中学校生活も残り少なくなり、黒板脇のカウントダウンポスターが教室になじみ始めた頃、臨時休校が発表されました。急遽、学級レクと同窓会入会式が行われました。あのときは、目の前の高校入試だけが心配で、卒業式までは考えられませんでした。幸いにも、残された二日間で高校入試の事前指導を受け、比較的落ち着いて四日からの入試に臨むことができました。

そんな慌ただしい二日間でしたが、一・二年生から届いた「旅立ちに日に」のビデオメッセージは、卒業式の中で聞けなくなつた分、後輩の皆さんからの最後

の贈り物となりました。

在校生の参加できない卒業式は体育館がとても広く、寂しく感じます。

本来なら、送辞に対し、答辞でより有意義な三年間の過ごし方を聞いてもらうはずでした。しかし、在校生の皆さんなら、私たちの伝えたいことのほとんどを、すでに知っていると思います。部活動とともにする中で、力を出し切ったときの充実感や爽快感を共有できたように感じていたからです。それは音を紡ぎ出す、一枚の絵に描きあげるうえでも同じだと思います。全てのエネルギーを注ぐことのできる人になってほしいと願っています。また、学校で、その気持ちを最も味わえるのは授業の中であり、学習に取り組むときです。目標を持ち、計画を立てて実行し、将来の可能性を広げてほしい

と願っています。中学校生活はあっという間に過ぎていきます。するべき時に、するべきことをこなし、たくさんの思い出を作りながら、自分をさらに高めてほしいと思います。

最後になりましたが、入学以来、私たちの成長に関わってくださった全ての皆様に感謝し、我が母校原町第三中学校の今後ますますのご発展と、校長先生をはじめとする教職員の皆様、本来この会場にご出席くださるはずだったご来賓の皆様、在校生の皆さんのご健康とご多幸をお祈りして、卒業生を代表してのあいさつといたします。

令和二年三月十三日

卒業生代表